

## 第 27 回「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業報告

「三条市と南会津の地域連携型による地方創生の基盤的資源作り

—国道 289 号線全通に備えて—

NPO 法人西潟為蔵会 弥久保宏

### 1 事業の背景と目的

#### (1) 事業の背景

国道 289 号線で未開通部分であった新潟県三条市と福島県只見町に跨る県境(八十里越)の開通が 2026 年頃に見込まれている。沿線の自治体は、八十里越の開通で訪れる観光客を梃に地域振興を模索している。その一方で開通による盛り上がりが開通時だけの一過性に終わり、日本海側と太平洋側の玄関口となる三条市下田地区と福島県南会津地域が観光客の単なる通過点で終わってしまう可能性が危惧されている。

こうした懸念に対処するために、沿線自治体では行政の観光部門、観光協会、商工会等で地元製品のブランド化などが試みられているが、残念ながら、そのアピール力は弱く、八十里越を挟んだ両地域連携型の地域振興の取り組みによる相乗効果で八十里越沿線のアピール力の高める具体的な方策が不在のままである。こうした背景に危機感を持ち、本事業を立ち上げることになった。

#### (2) 事業の目的

本事業の目的は大きく二つに分けられる。まず、八十里越を挟んだ両地域の行政をはじめとする関係諸団体や関係者へのフィールドワーク(面談聞き取り調査)を実施し、両地域連携による持続可能な地方創生の基盤作りの可能性を調査する。次にフィールドワークによって得られた地方創生の基盤となる資源の提言を講演やフォーラム等で行い、持続可能な地方創生の基盤的資源作りを実際に行うためのプラットフォーマーの役割を果たすことである。

### 2 事業内容

事業内容は、①八十里越を挟んだ両地域の行政をはじめとする関係諸団体や関係者へのフィールドワーク(面談聞き取り調査)②観光セミナーへの参加と意見交流③フィールドワークや観光セミナー参加から得られた成果を講演で問題提起を行うで構成されている。

#### (1) フィールドワークの概要

【期間 4 月 9 日(土)~13 日(水)】

①新潟県側から新潟交通が実施している「八十里越体感バスツアー」の現状と全通後のインフラツーリズムの可能性について面談調査。(面談相手) 山内宏幸(新潟交通営業二係)・斎藤健(新潟交通教育販売課長)

☞現在実施している「秘境八十里越体感バスツアー」の現状と全通後の企画イベントの可能性について意見交換。

②三条市下田地区で地元の観光関連や地域おこしを行っている人との面接調査

(面談相手) 大竹啓五(旅館嵐溪荘社長、下田商工会副会長、三条市観光協会理事)、佐野英憲(道の駅 漢学の里ただ駅長、三条市観光協会理事)、青木隆(三条市地域起こし協力隊隊員)、熊倉善幸(地元ミュージシャン、下田、只見町の共同産品販売促進を音楽でプロデュース)

☞八十里越全通を盛り上げる国道289号線のテーマ曲「八十リバティー」の制作を企画。また、八十里越全通を周知させる方策として、三条市が毎年開催している市民駅伝に「西潟為蔵八十里」というチームを編成し参加する企画をたて、後日、10月の駅伝大会に参加し、話題を振り撒くことが出来た。

③三条市営業戦略室での面接調査。(面談相手) 森田誠(三条市経済部営業戦略室長)・会田貴生係長

☞八十里越全通に向けた関連自治体の準備状況と関連イベントの意見交換。7月の八十里越街道観光セミナーの参加へ繋がる。

④滝沢亮三条市長と面談調査

☞市長と八十里越全通による観光振興を隣接の自治体と広域的に実現する意見交換。

⑤原崇(新潟日報社記者、論説編集委員)

☞NPO法人西潟為蔵会が明治の八十里越開削に貢献した西潟為蔵の歴史的資産を国道289号線全通の地域活性化に活かす取り組みを西潟為蔵の顕彰碑等を巡って解説し、その取り組みが後日、新潟日報紙のオピニオン欄に記事として紹介された。

【期間4月22日(金)～23日(土)】

①久住久俊(元三条市議会議長、歴史資源による地域振興の促進者)

☞北陸戊辰戦争で三条市内の戦いでなくなった西郷吉二郎等の慰霊碑建立により、それらが歴史教育や地方創生に与えた影響を参考にすることが出来た。

②八十里越の三条市側の玄関口になる大江大谷ダムの周辺環境を視察。

☞八十里越の三条市側のトンネルを抜けた最初の観光スポットになる可能性を探るため施設内の展示室やダム周辺を視察。

【期間6月26日(日)～6月29日(水)】

①福島県三春町歴史民俗資料館で歴史的資源を地方創生に活かしている実情調査。(面談相手)藤井典子(三春町歴史民俗資料館副館長)。

☞歴史民俗資料館の存在が観光客誘致や地域振興に役立てる手立てや歴史民俗資料館の

運営等について有益なレクチャーを受けることが出来た。この成果は、後日、「西潟為蔵記念郷土ミュージアム」(仮称)構想に繋がる。

②八十里越全通に向けて南会津地域のマスコミによる取り組み状況の面接調査。(面談相手) 渡部総一郎(福島民報社会津若松支社報道部長)。

☞八十里越全通に向けた南会津地域住民の取り組みを紹介してもらい、全通に向けた今後の三条市側の取り組みやイベントの取材、広報を依頼できた。

③会津若松市立図書館で八十里越に関する会津側の歴史資料収集

☞八十里越に纏わる会津側の歴史資料を収集できた。

④国道 289 号線の会津側の玄関口である只見町叶津で地元の観光インフラと八十里越のルート調査状況の面接調査。(面談相手) 長谷部忠夫(江戸期口止番所の番人、治八十里越開削の会津側の功労者、長谷部保三郎の子孫)

☞江戸期八十里越の会津側の玄関口にあった口止番所の役人を代々務めた長谷部家の子孫、長谷部忠夫氏の案内で口止番所を視察。また、氏が現在教育委員会の依頼で八十里越の歴史の変遷を実際に現場で測量調査している状況を聞き取り、それらの古道をトレイル等の観光資源にする可能性について意見交換。明治期八十里越開削の会津側の功労者である長谷部保三郎の話と資料を頂戴する。

⑤ 国道 289 線全通に向けて八十里越に関する歴史的資源を地方創生に活かす取り組みの面接調査。(面談相手) 恋塚忠男(三条市市民部生涯学習課課長) 永井純子(三条市市民部生涯学習課課長補佐) 岡田了(三条市市民部生涯学習課係長)。

☞明治期八十里越開削の功労者、西潟為蔵の功績と八十里越の歴史を展示し後世へ語り継ぐ記念館を三条市に創設し、観光スポットとして活かす可能性について意見交換。

⑥三条市下田地区の歴史的資源を国道 289 号線全通に向けて整備する活動状況の面接調査。(面談相手) 石澤功(八木神社宮司、三条市歴史研究会顧問、三条市埋蔵文化財審議会委員)

☞八十里越関連の歴史スポットである八木神社の宮司、石澤功氏から八十里越の歴史の変遷のレクチャーを受け、地元歴史研究会が郷土史の観点から地域振興に協力出来る可能性について意見交換。

⑦国道 289 号線全通に向けた三条市議会での取り組み状況の面接調査。(面談相手) 馬場博文(三条市議会議員)。

☞三条市市議議員の馬場博文氏は、令和 2 年三条市定例議会で三条市に明治期八十里越開削の功労者である西潟為蔵の偉業を顕彰する記念館の創設によって地域振興に活かす提言を行った。その提言を巡るその後の議会動向や記念館を複合施設にして郷土ミュージアムにする構想に対して賛同をえ、意見交換を行った。

⑧博物館の活用を通じた地方創生の可能性について。(面談相手) 伊東祐之(新潟市歴史博物館前館長)。

☞新潟市歴史博物館前館長の伊東祐之氏から、新たに博物館を創設する準備段階から、完成後の持続可能な博物館の運営や博物館を地方創生に活用する方策のレクチャーを受ける。その後の三条市側に郷土博物館設置構想を提言する上で大変参考になった。

【期間 7 月 27 日(水)】

国道 289 号線全通を三条市と広域行政として共同で観光資源に取り組む可能性についての面談。(面談相手) 加茂市副市長、五十嵐裕幸

☞ 八十里越全通を玄関口の三条市だけでなく、地域振興に活用する上で、三条市と広域行政の取り組みとして協働できないかを意見交換。今後、協働できる具其他的な方策について意見交換を続けることに。

### (3) 観光セミナーへの参加と意見交換

7月26日(火)、三条市内の越前屋ホテルにおいて三条市、只見町、南会津町共催による八十里越街道観光セミナー「選ばれ続ける地域を目指すための観光の在り方」(講師 山田桂一郎氏)とパネルディスカッションが開催され、参加した。講師の山田桂一郎氏は八十里越街道(国道289号線)の全通を見据え、この地域が観光の目的地として選ばれるためには何が必要か?地域の関係者が今から始めるべきことは何か?などについて問題提起を行った。

その講演の中で、観光客を惹きつける戦略として観光客のロイヤリティーを高めることが重要であり、その前提として地元住民の郷土へのロイヤリティーを高めることが必要であるとの提言があった。この提言から、地元住民が実は地元で眠っている宝に気が付いていない。つまり地元のことをよく知らないという事実に着目し、本事業の継続事業に繋がる地元「西潟為蔵記念郷土ミュージアム」(仮称)の創設を三条市へ提言する構想に繋がった。

第2部のパネルディスカッションでは、講師の山田桂一郎氏、三条観光協会会長、梨本次郎氏、福顔酒造表取締役、小林章氏、道の駅漢学の里駅長、佐野英憲氏等が三条市と南会津の地域連携による共同開発した日本酒、蕎麦粉等を観光産品として売り出している現状説明があった。この他、下田商工会渡辺定一会長、川上利男事務局長、只見町商工課観光係長、斎藤充氏、只見町観光商工課主事、目黒誠也氏とも意見交換が出来た。

## 3 三条市下田商工会主催「令和4年度 下田・只見町商工会八十里越交流事業」のセミナーで講師として講演

### (1) 講演による提言

本事業によるフィールドワークの成果を公表する一環として10月15日(土)三条市下田商工会主催「令和4年度 下田・只見町商工会八十里越交流事業」のセミナーで筆者が講演を行った。講演内容は、明治期八十里越開削で私財を投じて貢献した自由民権政治家、西潟為蔵と会津側のカウンターパートである長谷部保三郎を中心として新潟、福島両県が協力して初めて実現できた背景説明を行い、令和の八十里越開通を両地域の新たな地域振興の資源にするために、明治期と同様に協働して両地域を新たな観光圏として観光振興を呼び起こす提言を行った。

また、八十里越の三条市側の道路を「八十里越ためぞう街道」、只見町側を「八十里越やすさぶろう街道」とネーミングし、西潟為蔵、長谷部保三郎両氏の名前を語り継ぐ提案は、

参加者の満場一致の賛同を得ることができた。

## (2) 参加諸団体との意見交換

筆者の講演後、この交流事業に参加していた三条市長、只見町長を始め、新潟県三条地域振興局、福島県南会津地方振興局、建設事務所、関係自治体の議会議員、商工会、観光協会等により国道 289 号線全通に向けた進捗状況や全通による観光振興の可能性について活発な意見交換が行われた。全通後は、観光の他に緊急医療や両県を跨いだ通勤道路などとして「道路を使い切る」方策が提示された。一方、福島県側から八十里越区間への接続部分の道路が十分な除雪対策が整っていないとの問題点や会津側からの救急搬送で三条市に建設予定の県央基幹病院周辺道路の渋滞回避のための道路整備が遅れていることも指摘された。

## 4 事業成果と現状の問題点

本事業のフィールドワーク、観光セミナー参加、八十里越交流事業での講演（提言）等を通じた意見交換で以下の現状と問題点が明らかになった。

①八十里越の全通を持続可能な地方創生に資する基盤的インフラの不在

②新たな観光圏全体を俯瞰できる統括的ガイドブックの不在

→八十里越周辺を観光の通過点ではなく、日本海側と太平洋側を結ぶ観光のハブ化とするインフラの不在。

③ 八十里越地域住民が地元で眠っている宝を発掘し、地域力を発揮する学習と情報発信の場の必要性。

④ 持続可能な未来の地域振興を担う中高生を参加させる長期的視野の不在

## 5 事業成果の活用と継続事業

本事業によって得られた成果を基に、現状の問題点とその打開策として三条市と南会津の地域連携による持続可能な地方創生基盤づくりに向けた構想を関係自治体や関係諸団体へ提言した。問題解決に向けた取り組みと今後の継続事業は以下のとおりである。

(1) 明治期八十里越開削に貢献した自由民権政治家、西潟為蔵の名を冠した複合施設「西潟為蔵記念郷土ミュージアム」（仮称）を八十里越の三条市側の玄関口である下田地域に創設し、この郷土ミュージアムの中に八十里越街道沿線の八十里越の歴史を展示する「八十里越資料館」と郷土を学習し、未来の郷土作りに資する「郷土未来室」を設置する構想を三条市側へ提言。三条市長から賛同を得て、新年度からその準備検討委員会が発足する予定。

☞持続可能な地域振興のインフラ基盤となることが期待される。

(2) 新観光圏（八十里越街道）全体を俯瞰できる統括ガイドブック『八十里越ハンドブック』の企画を関係自治体と関係諸団体へ提言し、賛同を得る。現在、NPO 法人西

潟為蔵会の弥久保がハンドブックの編者となって、今後2年をめどに発刊する予定である。また、このハンドブックに街道沿線の中学生に地元のピーアール調査とその成果を寄稿してもらおう交渉を今後、沿線の中学校に働きかける予定である。このハンドブックの完成によって、太平洋側から来る観光客が予め、八十里越観光圏の宿泊先や観光ルートの旅行計画に大いに資することが期待される。

☞ インフラツーリズムの資源発掘と三条市と南会津地域の地位連携による地方創生の人的基盤作りに繋がる。

## 6 おわりに

令和3年の師走に北陸地域づくり協会の近藤敦理事長から国道289号線全通に関するレクチャーを受ける僥倖に恵まれた。近藤理事長は、新潟県側の国道事務所だけでなく会津側の国道事務所でも勤務経験があり、国道289号線全通に対する両県民の思いや難工事の技術的な面まで丁寧に説明をして頂いた。年末のご多忙の中にもかかわらず、長時間にわたって質問にもお答え頂き、改めて感謝を申し上げたい。この時のレクチャーが本事業に着手する大きな動機となった。

事業を開始した令和4年度の上半期は、まだコロナ禍終息の道筋も見えず、当初年末に計画していたフォーラム開催を10月の三条市下田商工会主催の講演と意見交換会で代替するという変更を余儀なくされる事態も生じた。一方、コロナ禍にもかかわらず、フィールドワーク先で訪れた面談相手の方々は、多忙の中にもかかわらず皆様からは一応に歓待して頂いた。八十里越を跨ぐ両県の各地域、各部署で地域振興に関わっている方々の八十里越全通に対する期待感を直に体感できた貴重なフィールドワークであった。両地域は既に心の中では「繋がっていた」のだと思う。

事業成果も「西潟為蔵記念郷土ミュージアム」（仮称）の創設や『八十里越ハンドブック』の企画、発刊という単年度で完結しない中期的な継続事業へ展開することになった。しかし、これら二つの継続事業は三条市と南会津の地域連携による持続可能な地方創生の基盤的資源になりうることを確信している。これも、この事業のスタートにあたり、北陸地域づくり協会様からの研究助成を頂戴出来たからこそ可能となった構想である。ここに感謝を込めて謝辞を表したいと思います。また、貴協会との事務上の問い合わせで企画事業部の湯田順子様には何度も問い合わせさせて頂き、その都度丁寧なご対応を頂いた。重ねて御礼を申し上げます。

末筆になりましたが、貴協会の益々のご清栄を心よりご祈念申し上げます。